

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 12年5月) ～コア CPI は再びマイナスに転じる

経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は 4ヶ月ぶりのマイナス

総務省が6月29日に公表した消費者物価指数によると、12年5月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比▲0.1%（4月：同0.2%）と4ヶ月ぶりのマイナスとなった。事前の市場予想（QUICK集計：0.0%、当社予想は▲0.1%）を下回る結果であった。

エネルギー価格の上昇幅が縮小したこと、テレビの上昇率がマイナスに転じたことが、コア CPI 上昇率を0.2ポイント程度押し下げた。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.6%（4月：同▲0.3%）、総合は0.2%（4月：同0.4%）となった。

コア CPI の内訳をみると、電気代（4月：前年比6.6%→5月：同5.6%）、ガス代（4月：前年比5.2%→5月：同5.1%）は高い伸びを維持したが、灯油（4月：前年比3.9%→5月：同0.9%）、ガソリン（4月：前年比4.2%→5月：同0.9%）の上昇幅が急速に縮小したため、エネルギー価格の上昇率は4月の前年比5.3%から同3.7%へと大きく縮小した。

新製品投入の影響で2月に前年比0.5%とプラスに転じたテレビは、4月には同8.1%まで上昇率を高めたが、5月には同▲0.4%と4ヶ月ぶりに下落に転じた。なお、テレビの指数水準は3月からの3ヶ月で10%以上低下している（2月：79.9→5月：70.4）。

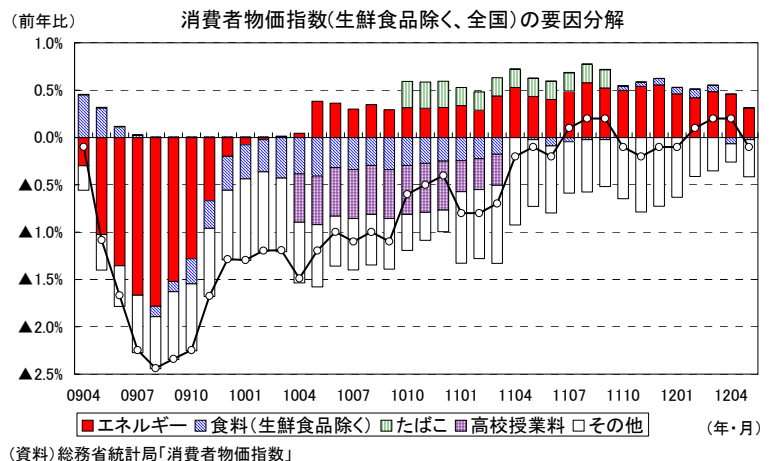
コア CPI 上昇率のうち、エネルギーに

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
11年 1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲1.0
2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲0.9
3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	▲0.7	▲0.8	▲1.0
4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	0.5	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.3	▲1.0
4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.5	▲0.8	▲1.3
6月	—	—	—	▲0.6	▲0.6	▲1.0

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

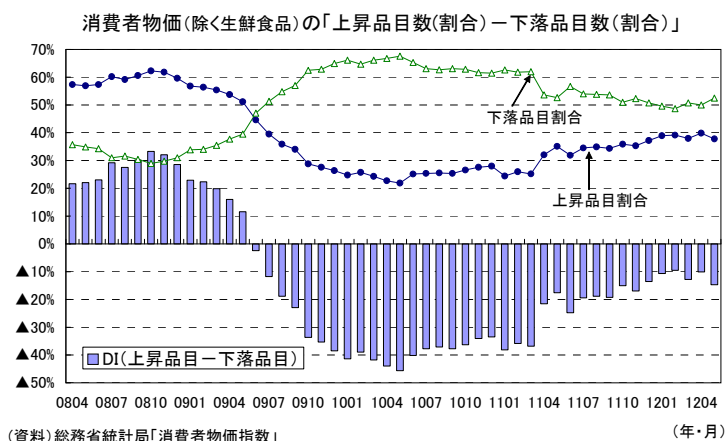


よる寄与が0.31%（4月は0.46%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.02%（4月は▲0.07%）、その他が▲0.39%（4月は▲0.19%）であった。

2. 物価下落品目数が2ヵ月ぶりに増加

消費者物価指数の調査対象524品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、5月の上昇品目数は198品目（4月は209品目）、下落品目数は275品目（4月は262品目）となり、下落品目数が2ヵ月ぶりに増加した。

上昇品目数の割合は37.8%（4月は39.9%）、下落品目数の割合は52.5%（4月は50.0%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲14.7%（4月は▲10.1%）となった。



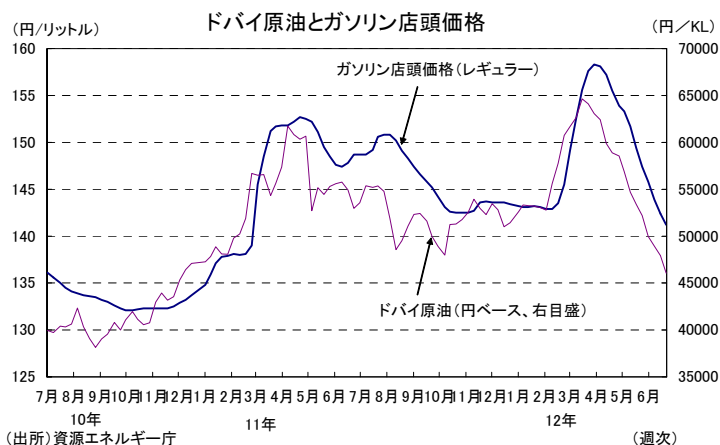
3. コアCPIはゼロ近傍の推移が続く見込み

12年6月の東京都区部のコアCPIは前年比▲0.6%（5月：同▲0.8%）となり、下落率は前月から0.2ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK集計：▲0.7%、当社予想は▲0.8%）を上回る結果であった。

ガソリン価格が前年比▲3.8%（5月：同0.0%）と2年7ヵ月ぶりに下落に転じるなど、エネルギー価格は5月の前年比6.1%から同5.2%へと低下したが、家具・家事用品（5月：前年比▲7.5%→6月：同▲6.2%）、被服及び履物（5月：前年比▲0.8%→6月：同▲0.4%）、教養娯楽（5月：前年比▲2.8%→6月：同▲2.2%）の下落幅が縮小したことが、コアCPIの下落率縮小に寄与した。

東京都区部のコアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.29%（5月は0.34%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.10%（5月は▲0.15%）、その他が▲0.79%（5月は▲0.99%）であった。

ガソリン店頭価格は4/2の158.3円（レギュラー、全国平均）から6/25には141.2円まで下落した。これまで物価を大きく押し上げてきたガソリン価格は当面前年比マイナスで推移する可能性が高い。電気代は火力発電の燃料費増加を受けて値上げされることが見込まれるため、高めの伸びを維持するものの、エネルギー全体の上昇率はゼロ近傍まで鈍化するだろう。コアCPI上昇率は当面ゼロ近傍で推移することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。